



更女しまね

第9号 2022.12.1

島根県更生保護女性連盟 松江保護観察所内 TEL: (0852) 21-3767



きすき
JR木次線のトロッコ列車

1998年から運行開始したトロッコ列車「奥出雲おろち号」は、標高差162mを西日本でもめずらしい三段スイッチバックで走ります。車両老朽化のため、2023年度を最後に運行を終了いたします。

更女の活動

木次線の無人駅「出雲八代駅」には約10年前から大仁地区更生保護女性会仁多支部会員による駅舎清掃・花壇の管理作業ボランティア活動の姿があります。またトロッコ列車「奥出雲おろち号」運行日には、ホームに立って手を振り、おもてなしの気持ちを伝えています。



コロナ禍の時代に



松江保護観察所
企画調整課長 このみ たか すけ
許 斐 隆 祐

島根県更生保護女性連盟の皆様には、地域に根差した多彩な活動を通じて明るい社会づくりに御尽力いただき、心から感謝申し上げます。

本年度から島根県の更生保護の仲間入りをしました。この度、企画調整課長となり更生保護女性会をはじめとして関係機関の方々と新たな業務に取り組むことで期待と不安でいっぱいです。島根県は初めてで分からないことばかりですが、皆様と一緒にあって当県の更生保護の充実のために努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、令和2年以降、新型コロナウイルスの世界的な蔓延が始まり、爆発的な感染期と収束期を繰り返し、この夏の第7波もようやく収まりつつあるように思われますが、いつ終息するのか見通しはつきません。こうした状況が長引き、物価の高騰から国民生活はダメージを受けるばかりか、ロシアのウクライナ侵攻や安倍

元総理の銃撃事件など世間を騒然とさせる出来事が起こり、心穏やかに過ごすことが難しくなっています。

しかしながら、こうした時にあっても島根県更生保護女性連盟は、令和3年度に立ち直り応援基金の助成を受け、「愛の図書」活動を活性化させるべく、新たに「ロゴシール」や「リーフレット」を作成したり、ICT化を推進するべく、本年5月18日に元アナウンサーの石原美和さんを迎え、講演会を開催し、オンライン活用して各支部へ中継を実施されたりなど、積極的に活動的な姿勢に頭が下がります。

お話は戻りますが、このような不安な時だからこそ、更生保護女性会員の皆様一人一人が女性の持つあたたかさ、細やかさを持って、現代社会に戸惑い、悩んでいる人や道に迷っている人を見つけたら歩みを止めて、様々な形で声をかけていただきたいと思います。

慈しみの心で人に寄り添うことができる更生保護女性会の活動は、今の時代において一層重要なものとして期待が寄せられています。皆様が、ますますお健やかに活躍されることを祈念いたします。



ごあいさつ

島根県更生保護女性連盟

会長 山脇 里美

季節は巡ってまいります。つい先だつてまでは暑い暑いで暮らしていましたが、早いものでございます。「更女しまね」発刊時期となりました。

with コロナ・After コロナという言葉が聞こえて参りましたが、このコロナ禍誰しも何かしら辛い思いを強いられて、活動がしたくても出来ない狭まれた活動になったかと思ひます。コロナ禍の向こうにはきっと希望が待っていると信じて参りましょう。

前回の理事会も、現状の新型コロナウイルス「第7波」の感染拡大状況を心配し依然として先行き見えない状況が続いておりました。結果、各地区より会長お一人のご出席となりました。今期は役員改選の時期となり選考委員様によって新役員が選出されました。事務局・会計・

監事を含め12名体制で令和4年～5年度務めさせていただきます。引き続きご支援ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

今年度から大田地区が森脇岸江会長以下55名で再入会され、島根県下2,300名余り28地区の構成となりました。全县下に更女が組織化されてうれしい限りです。

さて、記念すべき結成60周年記念式典も会場はむらくも会館にて開催、会員のさらなる結束と連帯意識の高揚に寄与すると準備万端に進めていましたが、コロナウイルス感染症数増加により急遽中止せざるを得ませんでした。その中で、「更女しまね」江角佳子編集委員長を中心に更女しまね8号を併せ持った後世に残る立派な記念誌を発刊できました。又、日本更生保護協会が母体の「立ち直り応援基金」に応募し助成金を頂きました。クラウドファンディングで資金調達を考えていましたが、この制度に応募し、採用されお陰で愛の図書のリーフレットやシールを揃えることが出来ました。この新しいリーフレットを大いに活用して愛の図書活動を広めましょう。再犯防止活動の一つになると確信いたします。

島根県更生保護女性連盟役員名簿

令和四年度

- 会 長 山脇 里美 (江津)
- 副 会 長 中島 和子 (鹿島)
- 杉山 悦子 (佐田)
- 常 任 理 事 岡崎 憲枝 (安来)
- 渡部天津子 (八束)
- 板谷 裕子 (玉湯)
- 川上 清子 (大社)
- 宮川 公子 (益田)
- 監 事 津戸 園枝 (斐川)
- 内部 佐依 (斐川)



各地区理事名簿

- | | | | |
|--------------|------------|------------|-----------------|
| 佐々木幸子 (隠岐の島) | 小川美知子 (島根) | 山岡喜美子 (平田) | 山脇 里美 (江津) |
| 上田 正子 (海士) | 中島 和子 (鹿島) | 嘉藤 馥美 (出雲) | 高木禮為子 (浜田) |
| 倉本 洋子 (安来) | 渡部天津子 (八束) | 江角 佳子 (斐川) | 宮川 公子 (益田) |
| 岡崎 憲枝 (安来) | 堀江 久世 (八雲) | 杉山 悦子 (佐田) | 中村 純子 (鹿足) |
| 為国 角 (伯太) | 板谷 裕子 (玉湯) | 柳樂 利子 (多伎) | |
| 青木 薫代 (松江) | 野津千洋子 (宍道) | 川上 清子 (大社) | 事務局 |
| 福本いずみ (東出雲) | 藤田 麻里 (大仁) | 森脇 岸江 (大田) | 会 計 今田 昭子 (江津) |
| 小川久美子 (美保関) | 福間美紀江 (飯石) | 南山智恵子 (邑智) | 書 記 安達美紀江 (東出雲) |

第61回愛の図書贈呈式を行いました

令和3年12月3日



県更女「愛の図書」贈呈先

- 松江刑務所
- 島根あさひ社会復帰促進センター
- 松江少年鑑別所
- わかたけ学園
- 中央児童相談所
- 出雲児童相談所
- 浜田児童相談所
- 益田児童相談所
- 島根更生保護会
- 島根県女性相談センター



本を読む喜びを知りました！

島根あさひ社会復帰促進センター
首席矯正処遇官(教育担当) 濱田 哲史

島根県更生保護女性連盟の会員の皆様におかれましては、日頃から当センターの運営を気にかけていただき、心から感謝申し上げます。

私どもは、犯罪傾向の進んでいない受刑者を収容する定員2,000名の刑事施設を運営しており、通常、刑務所と言えば国が直接運営していますが、当センターは、国と多様な民間事業所が協働で運営を行う、全国でも数少ない刑務所です。

ここでは、受刑者が社会に復帰した後に再び犯罪に走らないよう、多くの教育プログラムや職業訓練を行い、就職のあっせんや福祉施設等とのつながりを作らせています。

受刑者は、社会復帰に向けて教養を身に付けるべく余暇時間を活用し、また、矯正指導日と呼ぶ教育プログラムなどを重点的に行う日には、日課の中に読書の時間を設けていることから、頻繁に読書をしています。

そういう事情もあって、受刑者はみな、かなりたくさんの本を読んでおり、刑務所に来る前はほとんど本なんて読まなかったという受刑者も、ここを出所する頃には、すっかり読書好きになっているほどです。

そんな彼らの読書熱を支えているのは、会員の皆様からの御厚意である「愛の図書」です。これまでに膨大な量の書籍を寄贈していただいておりますが、図書館のようなところで貸し出しを行っていますが、本の1冊1冊には、島根県更生保護女性連盟から寄贈いただいたことが分かるようにスタンプを押しており、受刑者には、入所時のオリエンテーションでそのスタンプの意味を説明してから読ませるようにしています。

出所時の感想文では、「受刑中にすっかり読書が好きになりました。」とか、「いままで興味のなかったジャンルの本も手に取ることができ、関心の幅が広がりました。」といった感想が見られます。このように、会員の皆様方からいただいた本は、受刑者の再犯防止と社会復帰の重要な支えとして、当センターの大きな戦力になっているのです。



『昨今の更生保護の動向について』

松江保護観察所長 西江 尚人



平素は、特にここ数年は新型コロナウイルスの影響で、通常とは違う生活を強いられ続けている中、鳥根県更生保護女性連盟の会員を始め、地域の皆様方におかれましては、犯罪や非行のない安全・安心な地域づくりのために、御理解・御協力賜り誠にありがとうございます。

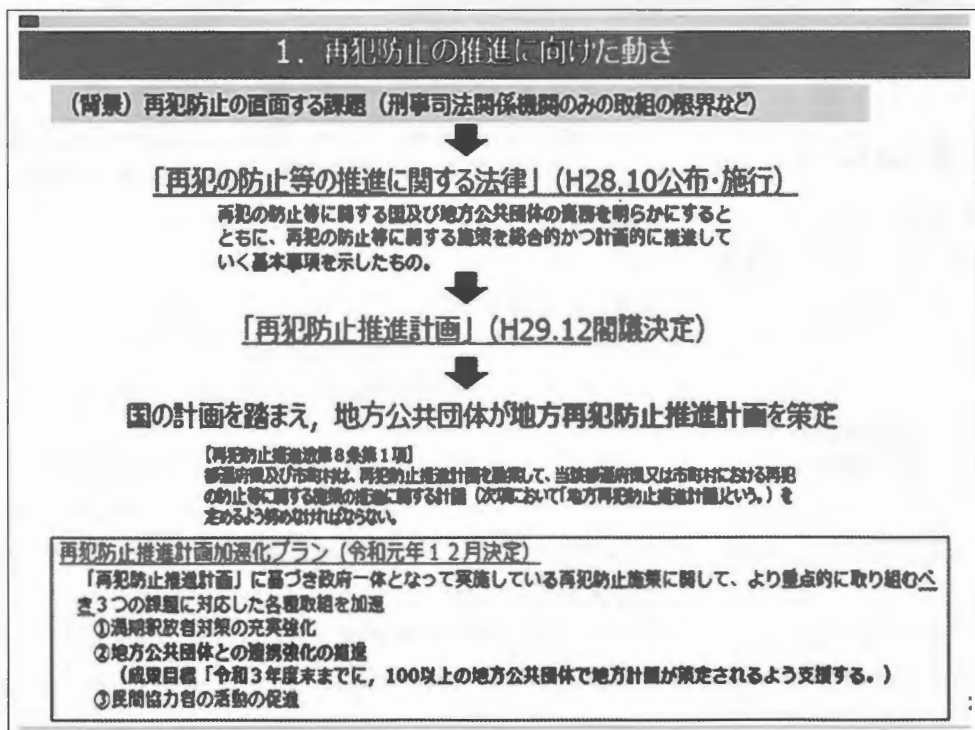
さて、この度は貴重な紙面をお借りして、標題のことについて、情報提供させていただく機会を頂戴しました。ついで、特に昨今力を入れている保護観察所の取組について、いくつか紹介させていただきたいと思っております。

【再犯防止推進計画】

罪を犯して刑務所や少年院に入った人たちは、死刑等の一部を除き、その大半が社会に戻ってきます。しかし、反省してやり直そうと戻ったものの、受け入れられることなく、また、差し当たっての相談先となる市町村の窓口へも繋がらなかった場合、社会復帰へのハードルが高くなってしまふことが容易に想像される場所です。また、警察官が逮捕してみたら初めてではなかった、いわゆる再犯者であった確率が約50%と年々高くなる傾向にあります。そこで国は、再犯防止を主体的に担ってきた保護観察所等の国の機関や、保護司や更生保護女性会、BBS会、協力雇用主会、更生保護施設、保護観察協会等の更生保護関係者のみならず、人が社会生活を送る上で最も身近な相談相手となる県や市町村の地方公共団体、さらには社会で生活している国民の全てが、再犯防止という1つの目標に向き合うことが必要だと考えました。平成28年には国と地方公共団体の責務を定めた再犯防止推進法という法律が成立し、平成29年には国による再犯防止推進計画が立てられました。その中身は、主に罪を償い社会復帰を目指す支援を受ける側の①就労と住居の確保、②保健医療・福祉サービスの利用の促進、③学校等と連携した就学支援、④特性に応じた効果的な指導と、支援する側の⑤民間協力者の活動促進、⑥地方公共団体との連携強化、⑦関係機関の物的・人的体制の整備等の項目からなり、更生保護女性会関連で言うと、活動の促進を図るため、財政上又は

税制上の措置等必要な施策を講ずるものとする旨定めています。

鳥根県では平成3年6月に県の再犯防止推進計画が策定されました。それに先駆けて、松江市・安来市・大田市・邑南町では市町の再犯推進計画が策定されています。さらに昨年度は出雲市と浜田市が、今年度は益田市、津和野町、そして美郷町で策定が予定されています。是非とも各市町村の再犯防止推進計画をバイブルとし、新たな被害者を生まない、誰もが住みやすい安全安心な街づくりに邁進する機運を高めていきたいと考えています。



【犯罪被害者等の思いに応える更生保護】

「加害者が被害弁償や謝罪を通じて事件と向き合い続けていると被害者が感じることは、事件から一歩も前に進むことができないたくさんの被害者にとって、少しでも生きる力を回復するために、絶対に必要なことなのです」。これは、法制度議論の場において、集団暴行によって御子息を奪われた被害者から、謝罪や被害弁償（以下、「謝罪等」という。）について出された意見です。全国的には、被害者を死亡させ又はその身体に重大な傷害を負わせた事件によって保護観察となった場合、レポートを通じて本人と話し合い、可能な限り被害者への謝罪等を目指すしよく罪指導プログラムの実施に取り組んでいるところ、当庁では、薬物事犯者等直接の被害者が存在しないケースを除く

原則全ての対象者に対して、プログラムを実施する取組を進めており、実際、謝罪等が実践されたケースも散見されています。

その他、加害者の仮釈放・仮退院について被害者の方から意見を拝聴する制度、被害者から加害者である保護観察対象者に心情を伝達しその結果を伝える制度、加害者の仮釈放・仮退院の審理や保護観察の状況等を知らせる制度、その他被害者からの相談・支援も行っています。引き続き、犯罪被害者等の思いに応えるとともに、対象者の真の立ち直りを目指して真摯に取り組む所存です。

【公民館との共同体制】

すでに更生保護女性会の皆様も公民館を利用しての活動や、公民館行事への参画等で、公民館との御縁はお持ちと思われるところ、さらに絆を深めさせていただいたという話題です。保護司による保護観察対象者等との月数回の面接は、保護司会に対応した県内9カ所ある更生保護サポートセンター（地区更生保護女性会の事務所を兼ねているセンターも複数あり）、或いは保護司と対象者の自宅を行き来する形で行われています。しかし、サポートセンターは遠方過ぎたり、自宅は家族の反対や集合住宅であるなど諸事情により、自宅に招き入れての面接が困難な場合も都市部を中心に昨今少なくありません。その場合、車の中や公園、さらには喫茶店の人気のない片隅等、苦心して面接場所を作っていたのが現状でした。

そこで、人づくりの核となる様々な地域活動の拠点である公民館におかれては、これまでも更生保護女性会の活動や保護司適任者の推薦等でご理解・御協力をいただいていたところ、さらに対象者等との面接場所として、お力添えいただくこととなったものです。是非とも、これまで以上に、更生保護にとって公民館と身近な関係が築けたらと願っています。



地区更女の事務所も兼ねた
邑智地区更生保護サポートセンター

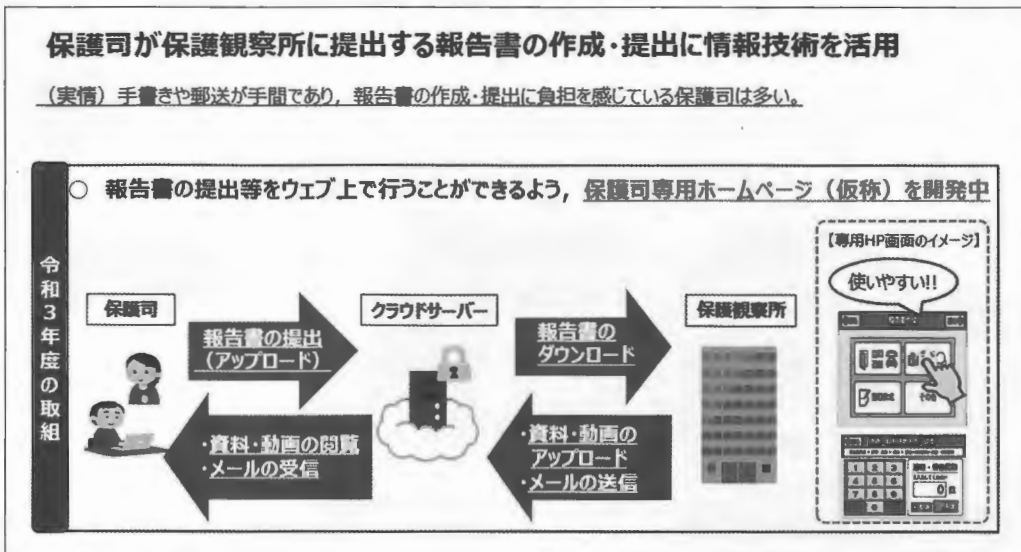


浜田まちづくりセンターの一室にある
浜田地区更生保護サポートセンター

【パソコンや携帯電話等オンラインを活用しての更生保護活動】

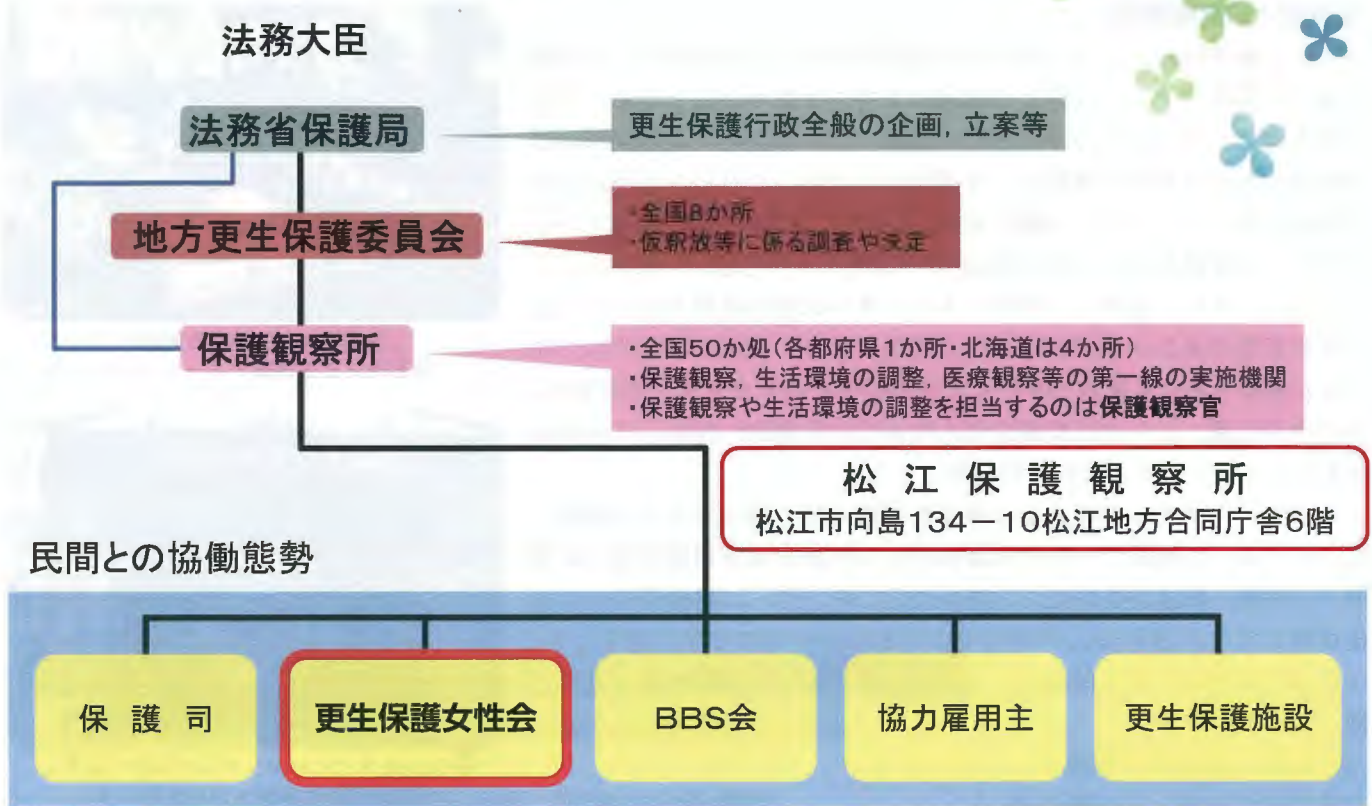
本年5月、県更生保護女性連盟理事会において、元アナウンサーの石原美和さんの講演を会場である保護観察所のみならず、更生保護サポートセンターや地域の公共施設において、複数の会員さんが聴講されています。今後も、遠方の会場に赴かなくても、自宅や自宅最寄りの公民館等公共施設において、パソコン機器等を活用して更生保護活動に取り組みやすくしようという動きです。また保護司活動に際しては、高度な個人情報扱うことから、気密性の高いホームページに別途登録いただくことで、研鑽資料の閲覧や報告書の提出、将来的には各種研修について、会場での受講が難しい場合は、パソコンや携帯電話を用いて、都合のよい時間帯で受講出来るように進めています。

更生保護女性会の活動においても、オンライン機能を活用しつつ、御希望を賜りながらより楽しく、より活動しやすくなるよう、保護観察所一丸となって全力で支援する所存ですので、引き続きお力添えの程、どうぞよろしくお願い申し上げます。



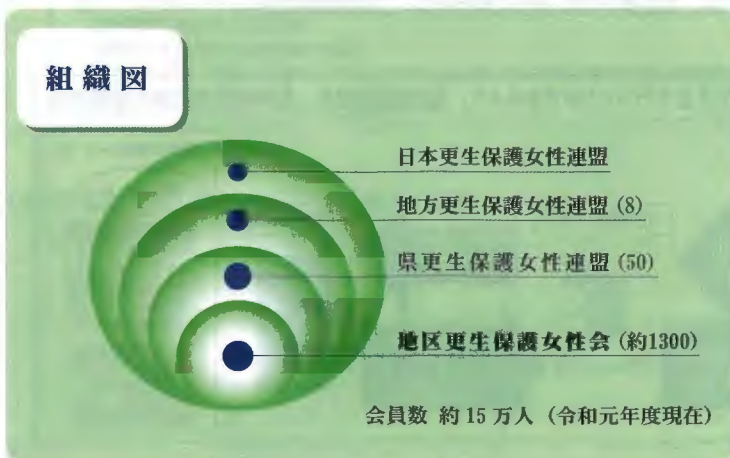
更女って？

更生保護の担い手



組織

会員は市区町村単位で組織されている「地区更生保護女性会」(全国に約1,300)に所属します。保護観察所単位に50の「都道府県更生保護女性連盟」、地方更生保護委員会単位に8の「地方更生保護女性連盟」、全国組織として「日本更生保護女性連盟」があります。



更生保護女性会のキーワード (4つ葉)



“こころ一つに…” しまねの更女

江津地区60周年記念式典

江津地区 三浦ミナコ

令和4年6月29日「パレットごうつ」を会場にして、待ちに待った「江津市更生保護女性会結成60周年記念式典」が挙行されました。

オープニングセレモニーでは、江津市民混声合唱団により爽やかで美しいハーモニーのコーラスが会場一杯に響き渡りました。



次いで藤間流簾恵会より更女会員お二人によりお祝いの舞踏に魅せられ、心ゆくになったところで式典が開式となりました。

皇后の宮「御歌」を厳かに斉唱、綱領唱和。会長挨拶では先人達に思いをはせられ、受け継いだ歩みをさらに進め、安心安全な社会の実現を更女の「ほっとけない精神」で、一層の充実を図りましょうと呼びかけられました。来賓の挨拶の後、記念講演は「島根あさひ社会復帰促進センターと地域社会」という演題で講師に濱田哲史様を迎え概要を、そして、地域とのかかわりについて分かり易くご講演頂きました。最後は「ホゴちゃん音頭」です。講師濱田さまも、当日ご参加の保護司の皆さんも全員で踊られ、すべて盛大に終了となりました。



歩み続けて これからも

出雲地区 嘉藤 馥美

だれもが心豊かに暮らせる明るい社会づくりをめざし、昭和37年の発足以来60年間、旧出雲市16地区では、それぞれの実情に合わせた活動をしてきたり、地区と連携し協同活動もしてきました。

結成60周年に当たり、結成60周年



事業実行委員会を立ち上げ、今後の発展を目指す新たなスタートになることを念じて、記念式典部会と記念誌部会を設けました。

令和4年5月19日にビッグハート出雲に於いて、出雲更生保護女

式次第

- 祝 舞
- 黙 禱
- 一 開式のことば
- 一 皇后の宮御歌斉唱
- 一 綱 領 唱 和
- 一 会長あいさつ
- 一 来賓あいさつ
- 一 来 賓 紹 介
- 一 記 念 講 演
- 一 閉式のことば

性会結成60周年記念式典を挙行しました。来賓4名のご臨席を得、全会員参加のもと滞りなく開催できましたこと、感無量でした。

また7月には、50周年から60周年までの10年間の活動をまとめた記念誌を刊行できました。会員の熱意と努力と絆で目的に向かうことができましたことは素晴らしいことでした。今後の道しるべとなるものと確信しています。

半世紀余りも続けてきた活動の歴史とその重みに感動し、先輩諸姉の努力に深く敬意を表するとともに、これを礎にいたし、更生保護の心を絶やすことなく繋げていきたいと思ひます。



結成60周年にあたって

平田地区 山岡喜美子

2021年（令和3年）、平田地区更生保護女性会は結成60周年記念の年を迎えました。そこで、5月には「60周年記念式典」、この時は中央から著名な方をお呼びして「記念講演」を、そして11月には、地区を挙げて取り組んだ諸々の活動をまとめた「記念誌発行」を計画し、1年前からプロジェクトチームを立ち



上げて準備を進めてきました。

ところが、2021年からはじまったコロナウイルスの蔓延から、中央の講師をお迎えすることは出来ず、記念式典もやっと11月17日に開催することができました。

「記念誌」は、まさに前大谷民子会長と共に歩んだ10年間の活動の集大成です。この間の活動は、社会福祉団体、保護司会、各地区のコミセン、幼、小、中学校等々と連携して取り組んだものです。



令和4年度 受彰おめでとうございます

令和4年6月20日（月）に東京法曹会館にて第59回“日本更生保護女性の集い”が開催され、法務大臣感謝状・日本更生保護女性連盟会長表彰が行われました。

11月2日（水）に松江市で開催された「令和4年度島根県更生保護事業関係者顕彰式典」にて授与・伝達が行われました。また、同式典にて中国地方更生保護委員長感謝状・中国地方更生保護女性連盟会長表彰・松江保護観察所長感謝状が各1名の県代表に授与されました。

令和4年度被表彰者



- 中国地方更生保護委員会委員長感謝状 23名
- 中国地方更生保護女性連盟会長表彰 28名
- 松江保護観察所長感謝状 142名



編集後記

季節は秋から冬に移り、人々は出会いと別れ、感染症との闘い、平和と安全の揺らぎにやり場のない不安な気持ちを抱きながらの日々と思えます。第九号は、“更女とは”をテーマに、改めて更女の立ち位置、いつもお世話様になっています保護観察所について取り上げました。

いつの時代であろうと、地域に根差した皆様の活動を知り、朝の連続テレビ小説タイトル「ちむどんどん！」の気持ちで活動できたらと感じました。

ご多用の中、玉稿を賜りました観察所長、企画調整課長はじめ、松江保護観察所の皆さまに厚くお礼申し上げます。(佳)

編集委員長 江角 佳子
 編集委員 山脇 里美 板倉 靖子 成合 千恵
 樋野 淑美 杉山 悦子 高木禮為子
 題 字 鐘築 章恵

